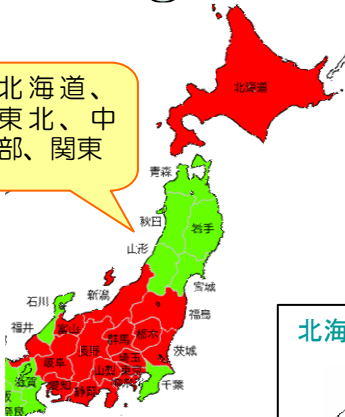


鳥取大学医学部生命科学科を志望する 後輩へのメッセージ

～北海道・東北・中部・関東出身編～



北海道、
東北、中
部、関東



北海道(1年):

生物を選択したくて、受験すること(は可能ですが、
高校時代にやっていたか、自分で大学に入ってから
勉強する必要があるので、どちらかという生物で
受験することをオススメします。

東京(3年):生命科学科は1クラスの人数が少ないため、皆
と仲良くなれます。また、個性豊かな人が集まり、いろいろな
考え方を持っている人がいるので知識以外にも得られるもの
が多いと思います。あと、鳥取というと田舎っぽいイメージが
ありますがここでも世界的な研究は行われています。

北海道(4年):

がんばって♡

福島(4年):

目的を持って入学しないと、入ってから自分は何をするべきか
悩んでしまいます。

目的をしっかり持っていれば、楽しい学科です。

茨城(2年):

鳥取大学生命科学科の強みの一つは、やはり学科が医学部にある事だ
と思います。これは私が受験校を決める上で大きなウエイトを占めました。この学科の
受験を考える方の関心の多くは、やはり再生医療や遺伝子治療の分野にあると思います。
詳しくはHPを見れば分かると思いますが、その点でも鳥取大学生命科学科は
期待に答えてくれる所だと思います。

北海道(3年):大学って何をやる場所でしょうか？勉強？遊び？部
活？どれもあっているけど、ちょっと違う気がします。
僕は社会に出る前の助走だと思っています。大学に来て、社会を見てく
ださい。考えてみてください。1年の時は主題科目でいろんなことを
学んで下さい。きっと何かみつけるはずですよ。それを磨いて下さい。
それだけの環境がここにはあります。

～北海道・東北・中部・関東出身編～

福井(2年): 福井県と鳥取県は人口、年齢層、繁栄している度合い、特産物、気候が大変似通っており、福井県民にとっては暮らしやすい環境だと思います。勉強に集中しやすいし、緑が多く、大学生活を送るには申し分ないと思います。
私が実際に受験に来た時も遠方に来たという感覚があまりなく、リラックスして面接に臨めると思います。
ただ、受験後、電車ですぐ乗らないと、福井駅までの終電がなくなってしまう。

新潟(2年):

新潟と鳥取の気候は近い。

茨城(3年):

自分のやりたいことが分かっていて生徒にとっては、日々の授業はとても楽しいものであると感じています。

群馬(3年):

周りに自然が多く学び場としては最適である。
医学部もけ別の場所のため他の学部と関わり少ないが、専門的な勉強、研究を行うには良いところである。

神奈川(2年):

年間50万を超える授業料、生活費、入学するまでの予備校費、参考書等貴方が大学で学ぶために親は莫大な金を負担することになります。
遊ぶため、もしくはしかたなく大学に行こうと思っているなら、高校出て就職しろと言いたい。

埼玉(1年): 自分で選んできてください。

山梨(1年):

関東地方から見ると鳥取県というのは地方でありとても田舎というイメージももたれがちですが、そのような先入観で大学を評価してほくはないです。内容で勝負ができる学科です。
他大学と比べても、

埼玉(3年): 生命科学科は40人程度という少ない人数で勉強しているので、全員と仲良くなることができ、とても楽しいと思います。
また医学のことについて研究をしていきたいと思う人にはとても良い環境であると思いますが、将来的に役に立つもの(資格)がないのは少し痛いかと思います。
1年次はキャンパスが違い、他学部の友達もできるし、授業も少なく、けっこう時間の余裕もあるので、1年目はおもいっきり部活、サークル、友達と遊ぶなど、大学生活を楽しんだほうが良いと思います。

山梨(3年): 妥協は良くないと思います。

～北海道・東北・中部・関東出身編～

新潟(2年):

高校1年の時は、地元の大学の理学部生物学科を志望していたがHPなどを見ても、生物の中で特にどんなことが学べるのかがわからなかったし学べる内容が広く浅い気がしていた。そこで鳥大の生命科学科は、生物という学門の中でも生命科学に特化していて深く学べそうだ! というのがわかりやすいのが、元々老化や万能細胞等の医療分野の研究に興味のあった自分には魅力的だった。

富山(4年):

大学には研究施設が充実している。細胞工学、ES、iPSを用いた、生命分野で何かやりたいことがある人には、生命科をおすすめする。節々の積極的な行動で、多くの経験ができてほしい。

新潟(3年): 非常に交通の便が悪く、遠方からの進学となるが、そうまでして来たので私自身はそれなりに自分のやりたいことがあったのだと思う。この学科は生命系でも医学部に属している珍しい学科であり、医学関係についてよく学べる点や医学科との合同講義によって自身のモチベーションを高く保てる点では優れていると思う。いろんな分野があり、現時点で1つの分野に絞ることは不可能で、これから講義を受け、実習を通して最終的に自分のやりたいことを見つけられたいと思う。大変興味を引かれる分野は多い(脳神経、ES、iPS細胞etc...)。様々な葛藤はあると思うが、特殊且つやりたいことがやれる学科なので、興味があれば考えてみてほしい。

栃木(1年): 結局、医学部なので本気で医療のことを考えている人がくるべき所だと思う。いわゆる生物学科とは異なる学科である。

新潟(2年): 普通の面接練習はあんまり意味がない気がします。自分のことを話せるようにした方がいいと思います。(やりたいこと、動機など)面接苦手な人は聞き直ったらいいです。

群馬(4年): 国立の大学で初めてできた鳥取大学なので他の大学より研究しやすい環境になっていると思います。

静岡(2年):

生物を勉強していた方がよい時もある。ひたすら頑張れ66

埼玉(3年): 私もはじめは医学科ねらいで、センター失敗してどこ受けようか...と調べ、鳥大の生命にきました。私の家はとなりが東京って所だったので正直言って鳥取受ける人ってなかなかいませんでした。私も受かるまで鳥取の位置すら知らなかったし。でも実際入学し、学んでみて、すごく興味深かったです。がんや心筋梗塞...といった病気を実際に治療するのは医師ですが、その技術は生命科学でつくられているのだと知ってすごいと感じられました。

～北海道・東北・中部・関東出身編～

岐阜(2年):

田舎だよ
共通点多いよ
岐阜市の方が少し都会だよ
でも海があるよ
海だよ
砂丘もあるよ
砂丘だよ
楽しいよ。

長野(2年): 面接の問題が入手困難ですが、生物などの基礎的知識があれば全然大丈夫です。
自分の興味のある事をとことん学んで下さい。センター試験でこけないで!

長野(1年): 数少ない医学部の中に設立された学科です。
天気は非常に変わりやすく不満ですが、長野に負けにくいくらい自然の多い場所だと思います。

愛知(2年): 人並みやって人以下。人より頑張ってる人並み。人の2倍やって人以上をモットーに頑張りました。目標をもって勉強すると勉強が苦にならなかった。

愛知(3年):

おちついた環境で興味ある分野を深く学ぶことが、鳥取大学の最大の長です。友人を見つけたり、クラブ・サークル活動を楽しむのも良いでしょう。

生命科学科では「医学分野により近い」生命現象やその応用分野(バイオ技術の先端)を学ぶことができます。医療分野からバイオ技術にアプローチしたい人には大変適した学科といえます。

入学してから見えてくることはたくさんあります。自分の本当にやりたい事を明確にし、それ自体に(もしくはそれに近いことに)どう近づくか、自分で道を切り開いていってください。そうして初めて、学んだことが役立っていくはずですよ。

自分の知りたい分野に社会がどうにかかわっているのか、物事をあらゆる角度や立場から見れば、また違う何かが見つかると思います。

岐阜(1年):

入りたいのは生物の勉強を
先生と一緒に考える。
あとは、とにかくおこせ。

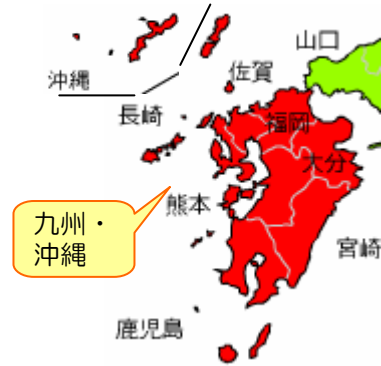
愛知(3年): 自分に明確な目標がある人はそれを貫いても新たな情報を元に進路変更をしてもいいと思う。
自分に目標がない人は様々な人とふれ合うことで、今後の目標をいかに早く導き出すかが重要だと思う。
研究職について理解しきれていないが、知識がないとやっていけないことなので、非常にやる気と興味、関心があることでしか続かないと思うので、メディアからの情報でもなんでもいいので自分の興味があるものを知っておくことが大事だと感じた。

愛知(1年):

愛知からは少し鳥取は遠いかもしれませんが、
実際に来てみると、さほど暮らしにくくなく、
自然が豊かで、よいところでした。

鳥取大学医学部生命科学科を志望する 後輩へのメッセージ

～九州・沖縄ほか出身編～



福岡(1年):

自分が将来したいことは何か、よく考えて進路を決めて下さい。
なぜそれをしたいのかということを確認して下さい。
しっかりとした動機があれば、面接は決して難しくはないはずですよ。
頑張ってください。

福岡(1年):

入ってみて分かる鳥取大学の良さがある。

福岡(1年):

生命科学に興味があって、この生命科学科を受験しましたが、入学おぼろげに、本当にこの学科が自分が求めていたことを学べる学科なのか不安でしたが、来てみて思ったのは、まさに、自分がしたいことをする学科だったので、本当に良かったんです。受験生の人にとって、この学科が、目的に合ったりとある学科であることをわがいます。

福岡(2年): まだまだ専門的な事を何もやってないので、答えられません。でもここを受験したい人は様々な経験をする事が一番の対策になると思う。

福岡(2年): 医学部内に設立してある生命科学科は鳥大と九大だけで、鳥大は歴史もあるので、医学的な要素もしっかり学べるので良いと思います。

福岡(2年):

九州(とくに福岡)からの後輩がいっぱい欲しいです。鳥大は先生方が熱心なので、すごく勉強しやすい大学です。都会じゃないからと、いってさげなしないで下さい。鳥大サイコー。

～九州・沖縄ほか出身編～

福岡(3年):

- ・センターが重要。
- ・面接は普通程度にできれば大丈夫。
- ・湖山は大学らしい感じがするが、米子はあまりしない。
- ・米子は物価が湖山に比べてけっこう高い。
- ・湖山の一般教養(必要だけど)は高校の延長の感じで、かなり退屈だった。
- ・2年生から生物に関することがたくさんあるので、高校の時生物選択だった方がかなり楽。

福岡(3年): 自分がこれからどんな勉強をしてどう生きていきたいかなどをしっかりと考えた上で進学して来人にはとてもぴったりの大学だと思います。はっきりとやりたいことが決まっていなくても、生命科学に興味があれば大丈夫です。高校で生物をやっていなくても全然大丈夫です。大学入れば自分で必要性に気づいて自分で勉強できます。大学でもサポートはそれなりにあります。とにかく、やる気と考えがちゃんとまとまっていれば問題ありません。

長崎(1年):

少しでも興味があれば
その中にとびこむ勇気が必要だと思います。
楽しい仲間や先輩がでます!!

福岡(2年):

本や新聞記事やニュースなどを使って、自分のアンテナを広げて下さり、
きて、鳥取大学生命科学科に行きたいという思いが強くなるはず。
そして、その思いが一番大切なものだと思えます。
面接だと悩むかもしれませんが、面接とは自分の見えない部分を
アピールする最大のチャンスです。ぜひ、生かしてください。

福岡(3年): いろいろな大学で、生命科学系の学科がありますが、鳥取大学には日本中の様々な都道府県から学生が集まっています。鳥取は静かであり、学科の人数も少なく皆と仲良くなれるので、楽しく学ぶことができます。

福岡(3年): 生命科学科に入ったことで、個性豊かな友達と出会うことができたし、自分の興味のあることが学べてとてもいいと思う。

福岡(3年): 鳥大生命の一番の魅力はなんといっても医学科の学生と同じ講義をうけられること。「生命科学科」は日本に数多くあれど、これは「医学部生命科学科」にしかできないことです。そして「医学部生命科学科」は国立ですと平成20年度現在、たった2つしかないのです。近代医療に触れつつ、生命現象を見つめたい方、是非鳥大生命へ。

佐賀(2年):

2次試験が面接だけだからといって
勉強していないと、大学に入って学力不足
を感じてしまうので、全ての科目をきちんと
勉強することが大事だと思う。

長崎(3年): 医学部の中にある生命科学科は特殊で、様々な他とは違った経験ができる場所です。

～九州・沖縄ほか出身編～

熊本(3年):

生命科学科は少人数なので縦や横のつながりが強く、一体感があるとても良い雰囲気です。自然に囲まれており、学ぶ環境も整っていて、充実した大学生活を送れると思います。

熊本(3年):

湖山では空コマが多く比較的、楽な生活を送れると思います。米子にくと専門的なことしかやらなくなるので、主として様々な分野の話聞いておきたいほうがいいと思います。

熊本(1年): 医学部の中にあるということで医学の知識を学び、新しい分野に出会って、自分の興味を広げることのできる学科だと思います。身の回りのほんの小さなことから興味を持ち、自分で探求していく気持ち、この学科では大切なのではないかと思います。

鹿児島(3年): 米子キャンパスに移ると、専門科目が一気に増えるので、湖山のうちに遊んでおいた方がいい(単位落とさない程度に)。入試は面接のみで、ある程度の知識があれば後は言いたいようにしゃべればよい。「わかりません」「思いつきません」という勇気も必要。妙な事言って深く聞かれるよりはましかもしれない。

大分(2年): まだ一年目なので何とも言えませんが、一年目の大学の授業は高校の授業の延長な感じがします。ただこの一年目で単位を落としてしまうと、二年目に米子のキャンパスに行けなくなってしまうので、気をつけないといけません。地元の人達はともかく、大学に入って一人暮らしを始めた方々は朝起こしてくれる親はいませんので、寝坊をして単位を落とすことがない様に気をつけて下さい。

大分(1年): 面接などやったことがないから不安でたまらない! と思っていると思います。でもそれはみんな同じです。センターの結果がどうであれ、鳥大の生命を受けると決めたならしっかり切り替えて情報集めをして下さい。先生達は受験生のありのままの考えを見たがつていると思うので、上手な答えを作ろうとしないで自分の思ったことを素直に言って下さい。先生はしっかり受け止めてくれます。あまり調子が良くななくてもフォローしてくれます。あきらめないで下さい。とにかく面接練習の数を重ねることを薦めます。

大分(4年): がんばれ!

大分(4年):

大学入試は1つの大きなヤマではありますが、しかし、大学に入って学ぶという事は、特に大学院進学を考えているのであれば、所詮1つの通過点でしかありません。「入学おき」とはなく、どこを目指して進んでいくのか意識した勉強をしてください。それから、体調管理には十二分に気をつけてください。入学できました、でも身体はボロボロでは何の為だか分かりませんよ。

~九州・沖縄ほか出身編~

宮崎(1年):

宮崎から鳥取まではどんな手段を使っても時間がかかりますが鳥取県は宮崎県によく似た何もなげないいい町です。遠くから来るとしても大学生は時間は短し自分の目標を定めて頑張れば充実した日々を過ごせると思います。

宮崎(1年): 気候が違うので最初は戸惑いますが、慣れてきました。遊ぶ所もたくさんある、というわけでもないのですが勉強するには良い環境だと思います。

宮崎(1年):

生命科学科は、1年次を湖山キャンパスで過ごすため、他学部との交流があり、基礎教養をしっかり身につけることができると、最初の1年間は、視野を広げて新しいことに興味を持つチャンスだと思います。

医療や、医学の発展に興味のある人には、ぜひ、おすすめする学科です。

大分(4年): やはり医学部にあるので、医学的専門知識も得られることはいいことだと思う。湖山キャンパスでは、講義数も少なく、何だか無駄な時間を過ごした気がする。初めから米子にいればもう少しいろんな勉強ができたのではないと思う。何も資格が取れないことは、若干将来不安である。

大分(4年):

湖山は自然が豊かで、時間的にも余裕があるので、自然とふれあえる。

米子は車がないと自然との触れ合いは少なくなる。本学はたくさんの学科があり、人が多いので、友達を多く作っていたほうがいい。

宮崎(2年):

1年時は湖山の生活で、2年時は米子の生活です。

湖山での友達を多く作ることも大切です。

色々な人もまじって、色々な人の良い所を吸収して自分を作りあげていくから、バツバツ勉強するのではなく、とにかくたくさんの人と交わってほしいです。

～九州・沖縄ほか出身編～

鹿児島(1年):

高校で生物も履習していたんですが、授業を通じて知らないことが多々あるので、やらない人は、独学でもしていけば、入学してから楽になりますよ。

鹿児島(1年):

医学・生命科学に関するニュースなどはしっかりとチェックしておいた方がいい!

鹿児島(3年): とりあえず、この学科がどういう学科かしっかり調べてから受験してほしい。あと、本当は医学科に行きたいけど、仕方なくこっちを選ぶ、という人がもしいたら考えなおしてぜひもう少しがんばってほしい。

沖縄(1年): この分野はまだ発見されていないすごいことを私たち自身が見つけられる可能性の大きな分野だと思います。なので、みんなでその謎を解明しましょう。

無記名(3年): この学科は学校での資格がとれない。だからこそ自分での勉強に取り組むべき

無記名(4年): 自分のやりたいことが明確になっていれば何事にもがんばれると思います。

沖縄(3年):

沖縄から出ることに多少はからず抵抗があるだろうし、環境が全く違う場所での生活に不安を感じると思うけど、何とかなるものなので、勉強したいという意欲があるならぜひ来てほしいです。

無記名(1年):

とにかくセンターが大切です。面接ではあまり差が付かないように頑張ります。もちろん面接を軽んじてはいけませんが、あまり気負わない方がいいでしょう。

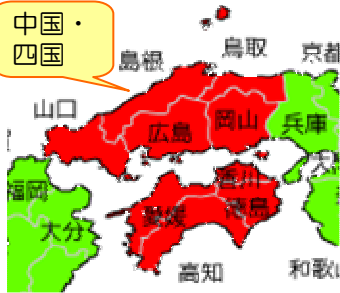
また面接の控室に生命科学関連のセカリ抜き本(本た)と重(ぼるのじ)を持って行って、試験時間まで読んでおくといいでしょう。面接で使えるネタが見つかるかも知れません。自信につながるといいと思います。

鳥取大学医学部生命科学科を志望する 後輩へのメッセージ

～中国・四国出身編～



中国・
四国



鳥取(1年):

ここが最初から第一志望なら
センターを死ぬ気でやればいいと思う
大学で楽しみたいなら二次試験もしといる方がいい
生物有利!!

鳥取(2年):

生命科学は人数的に、40人程度なのよね。とにかく
仲良くすることが大切だね。
また、生命科学の入試の面接は知言識見も53人の事、
発想力を試すような問題がとて多いのよね。
つ。こまれても、ちゃんと言い返せる自信のある
自命を考えてから発表する方がいいと思います。

鳥取(1年):

具体的に学びたいことが決まっていなくても、生命科学科は多分野に
活用できる学習や研究がされています。自分がしたいと思うことが
まっとできる学科だと思います。

鳥取(3年):人数も

40人ぐらいで少なく、
わりとみんなと友達
になれて楽しいです。

鳥取(3年):問題点

としては数学、物理、
化学の授業が2年
以降ない点。

鳥取(1年):

受験期は、1冊の本を読んでいた記憶があります。
実際は面接では多くの課に立たい知識とやってしまったことばかり
でした。生物を高校で履修していたから自分には自信やアタマが
自信に足りませんでした。今になってみれば、当然のこととして無馬
ではなかったと思います。

鳥取(2年):医学部内にある生命科学科なので、生
命科学という学問領域に対して医学的アプローチ
ができるので、医学に興味ある人にはもってこいだ
と思う。

鳥取(4年):

県内なら がんばれば通えます。
通わなくても、一人ぐらしがさびしくなると
その日に帰省できます。

～中国・四国出身編～

島根(1年):

知識は何かと役に立つので興味を持ったものについては詳しくなってるといいよ?

島根(4年):

生命科学科では3年生になると実習が(エビメリ, 細胞工学, 神経, 免疫などの)様々には分野の実習をやることができます。

岡山(2年): 受験ではとりあえずセンター試験に向けてしっかりと5教科7科目を固めていくことが重要だと思う。面接対策はセンター後で十分間に合う。あと二次試験は面接だけが、数学ⅢC、化学Ⅱ+生物Ⅱ物理Ⅱ(うち選択している2科目)はきちんと勉強していく方がいいと思う。(できるなら二次試験までの間)

岡山(1年):

北は北海道から南は沖縄まで、
特に全国津々浦々から人が集まっていて
非常にユニークな学科なので、おもしろいよ!

岡山(2年):

二次試験は面接だけですが、生命科学分野で自分が興味を持って
いる事にも広く知り理解しておくべきだ"と、思います。

鳥取(3年):

生命のしくみや病気の治療といったことに興味のある人
にとってはとてもおもしろい学科だ"と思います。湖山
ではもうひとつ専門的な授業が"あおほう"という
思います。

島根(1年):

最初は湖山に1年しかないの"色々と面倒だ"と思っ
ていましたが、米子には面白い授業や部活があり、今では
湖山に"あおほう"という気持ちになりました。

島根(1年): センターで失敗しても、あきらめないこと。
面接で奇跡が起こることもある。
チャンスは全て、ものにすること。
センターで失敗しても、推薦で受かった人もいる。
あきらめなければ、道は続きます。

岡山(2年):

二次試験が"特殊で"対策に困ると思いますが、
二次にむけて生命科学のことについて深く調べたり
自分の将来について真剣に考えたりできるので、
無駄になることは絶対にありません。
がんばってください。

岡山(2年): 生命科の先輩の中には国内だけでなく、海外で
活躍されている方も大勢います。皆も鳥取の生命科から世界
に通じる知識人を目指ませう!!

広島(1年):

センター試験と2次試験の配点が800:400であり、また2次試験の面接はきちんと質問の受け答えができれば"点数は取れると思うので"、やはりセンター試験が一番大切。なのでセンター試験でちゃんと点数が取れるように日頃から勉強していった方がいい。

広島(1年): 二次試験に面接があることもあり、不安なところも多いと思いますが、医学のことについて研究したい、貢献したいという思いがあれば、大変楽しい学科だと思います。また、私は生物ではなく物理を高校の時に学んでいたのですが、大学でカバーできるようなサポート体制もあるので、安心してもらえんと思います。

広島(2年): 生命科学科は人数が比較的少なく、仲が良いです。また教授の方々もフレンドリーな方が多く、とても楽しいです。生命科学の面接では今までの経験、知識を上手く表現する力が必要だと思います。だから日頃から考えることを習慣づけることができればいいと思います。

広島(2年):

どの大学、学科を目指すに限らず自分の目指す大学より入試難度の高い大学も狙うつもりで勉強してほしい。大学入試本番において実力を発揮できる人というのは(天の恵みで)模試等の結果とはかけ離れた点数になる人がほとんどだと思う。模試の数値に満足せず、気を抜くことなく入試に臨んでほしい。

広島(2年):

オープンキャンパスや学園祭に参加して、先輩方にいろいろ聞いた方がいいと思います。

広島(3年): どの大学でも同じだと思いますが、本当に行きたい大学は第2志望くらいにとらえておき、更に上を目指す感じで勉強しておけば油断等もなくなったりすると思います。センター試験は生命線なので2次のことはあまり考えず、センターに集中して下さい。

~中国・四国出身編~

広島(1年): 研究したいならここがよいです。いろんな分野の知識を得ることができます。

広島(1年):

生命科学科は約40人から成り立っているのだ。高校のクラスのような感じで、すでに皆と仲良く仕上がります。

広島(2年):

受験勉強をしていると誰でも必ず不安になる時期があります。そんな時は、"不安な気持ちを上書きしちゃうくらい前向きな気持ちを意識していれば大丈夫。"です！それと、受験のために勉強している、と考えるのではなく、自分の夢を実現させるためのスタート地点に立つために勉強している、と考えるようにするとやる気が出てくると思います。

広島(3年):

- ・湖山と米子は全く内容が異なる。
- ・それ故初めの方は戸惑うかもしれない。
- ・先輩とのつながりは大事なものである。と思う。
- ・受験に関しては自分の知っていることを自分の言葉で、しっかりと喋ることが出来るようにしておこう。
- ・あまり熟考しようとせず、思った事を述べるようにした方がいいと思う。

～中国・四国出身編～

広島(3年):

米子に来ると、授業が多くなるから、湖山にいる内に遊んでおくこと。受験に対するアドバイスとしては、面接だけなので過去問をみたりその年に話題になったバチ的なのを説明できるようにしたり生命科学科に対する思いを言えるようにすればいいと思う。

広島(4年): 近年の急速な医学の進歩に伴い、生命科学の重要性は日々その度合いを増しています。この鳥取大学医学部生命科学科では、恵まれた環境の中で様々な専門知識を身に付け、学生生活を通して自分が本当にやりたい事を見つけることができ、医療の発展に貢献できる人材を育成しています。

広島(3年): 私がこの生命科学科に入ったばかりのときは、ほんとこの学科は何をしたらいいのかわからなくて迷ってばかりで、正直つらかったけど、1年たってみて、この学科の利点が見えてきた。それは将来の道が決まっていなくていいということ。医学科だったら、お医者さん。看護学科だったら看護師と、将来これになるという目標に向かって日々勉強するけど、この学科はちがって、卒業された先輩には医学科に編入して、お医者さんを目指された人や、心理学の道へいった人など別の道に進むにはそれ相当の努力が必要だけれども、まだいろんな可能性がある。入学して1年間でそう考えられるようになりました。

山口(4年):

医学部にあるからこそ学べること多い!!
自然に囲まれ、素敵な教授、良き友と一緒に
医学に直結した生命科学を学ぼう!!

岡山(4年): 鳥大の生命科学科は医学部に所属しているため、生命科学だけでなく、医学・保健に関することを幅広く学べる数少ない学科であると思います。また、3年からの実習は少人数で行うので、より具体的に生命科学を学ぶことができます!!

広島(3年): 湖山では生命科学の専門的な内容に触れる機会はありませんが、米子では専門的な授業ばかりになり、自分の興味を持っている内容に触れる機会が多くなります。ただし、米子に来てからは湖山にいた時に比べ、かなり忙しくなるので湖山にいるうちにサークルやバイトなどやりたいことをやっておくのがいいでしょう。受験勉強に関しては、センター試験が終わるまではセンター試験の勉強をしておくのがいいでしょう。面接対策はセンター試験の後でも間に合います。時間があればセンター試験の前でも生命科学の内容に触れてみていいかもしれません。

広島(4年): ここを受験する人にとっては、生命科学では何をしたいのだろうか?どんなことができるのだろうか?と不安になっていると思いますが、ちょっとでもこの分野に興味があるのなら受験すべきだと思います。分野はたくさんだし、多方面に活躍している先輩もいます。

山口(3年): 一年の時は授業数が少なかったのが暇だったけど、米子に来てからは授業数も増え、内容も専門的になるので楽しくなりました。私は生物選択ではなかったけど、入学当初は不安でしたが、授業をやって自分で勉強すればそんなに問題があるとは思わなかったように感じました。

山口(4年): 【受験のアドバイス】
センターでしっかり点を取る。面接対策に科学雑誌や本などを読んでおく。

～中国・四国出身編～

山口(2年):入試はセンター試験と面接なので、とにかくセンター試験の対策が必要だと思う。面接については、普段から生命科学に関連するニュースなどに目を通しておき、その中で自分が興味を持ったことをもっとよく調べるとよいかもしれない。また、疑問に思っている現象に関して自分ならこういう実験をして解決してみたいなど、いろいろと想像しておくとうい。

山口(4年):鳥取大学の生命科学科は医学部に設置されているだけあって、他大学の動植物メインのものとは違い、人間の生命科学をしっかり学ぶことができます。今、注目が集まっているiPS細胞などの再生医療分野から、がんや免疫、遺伝子の細胞工学まで人間の生命科学に興味があるならきっと満足する内容がそろっています。教授の方々も分からないことがあった時は、質問すればしっかり教えてくださるいい方ばかりです。人間の生命科学に興味がある方は本学の生命科学科に入学することをおすすめします。

高知(2年):
湖山では少し学校から離れているだけで遠いと感じるので、徒歩で行けるアパートにするべき。

香川(1年):

生命科学科で学ぶことは、生命の神秘、ヒトの身体や病気のメカニズムなど、知れば知るほど興味深く、面白いです。医学の研究をしていきたいという意欲を受けとめてくれる環境が、鳥取大学医学部生命科学科には整っていると思います。

愛媛(2年):

自然豊かな所です。学内はとっても静かで勉強に打ちこみやすい環境があると思います。また図書館の利用率がすごく高い所だと思います。県や市の図書館とソングレインなのでかなり蔵書量もあります。さらに勉強スペースとして広くあるので、かなり活用させていたっています。

徳島(2年):

梁の気持で面接を受け、先生方との会話を楽しんで下さい。

愛媛(3年):

湖山で過ごした1年は、忘れられないくらい濃厚でした。高校では体験できなかったことも色々とあったので良かったです。ただ1年で湖山から巣立ち越えるのは経済的にも親にとっては大変だなと感じました。

鳥取大学医学部生命科学科を志望する 後輩へのメッセージ

～近畿出身編～



滋賀(1年):

鳥取は滋賀よりも寒く、雪も降ります。
でも住み易くていい所です。

三重(2年):

生命科学科には、医学科に行くと医者を目指していた人
達が多くて、同じ境遇にいる人バリエーションに少し
励まされた事もする。もし医学科を目指していた人でも
この生命科学科は必ず「医療に貢献できると思う
ので、ぜひ来てほしいと思う。

大阪(1年):

鳥取は今まで住んでいた地域とは全く違います。
初めはとて不便に感じましたが、勉学に集中でき
という面ではとて素晴らしい環境だと思えます。
授業は、自分の好きな分野なのでとても楽しいです。
医学部の先生に教えて頂けるのが最大の利点だと
私は感じています。

大阪(2年): センター試験を受けた後、二次試験が
面接だけだと何をしたらいいのか分からなくなるし、
モチベーションも下がってくると思います。しかし、色々
生命科学科について調べたり、面接対策を試みたり、
しゃべる練習を試みたりして、とにかくモチベー
ションを保つことを重視して二次試験までの日々を
過ごしてみたら充実すると思います。是非最後まで
全力で頑張ってください。

大阪(2年):

本当に行きたい学科であるならば、最後まで
あきらめずに下す。自分が行きたいのか
何のために勉強するのかを、自問自答して下
さい。そして、その答えが出たら、それを信じて
努力し続けて下さい。努力は裏切りません。

大阪(2年): 大阪や京都には国公立、私立ともにたくさんの大学があ
る。私も最初は家から通える大学を探していたし、通うつもりだった。だ
が高校三年生になって、せっかく大学に行くのであれば自分のやりたい
事を勉強したいと思うようになり、自分の興味のあることを真剣に考
えて、地方の大学も視野に入れて様々な学部、学科を探した。その結
果、私は生命科学科で勉強したいと思え、受かって勉強することができ
ている。
地方の大学へ行くのは不安もあるし、負担も大きくなるけど、やはり
せっかく行く大学では自分のやりたいことをするべきだと思う。

～近畿出身編～

京都(3年):鳥取は大学生らしい生活ができる場所だと思います。勉強も自分が望むならば充実させていくことが可能です。様々な分野の最先端の話がきけるので、興味をもって受ければ楽しいです。受験では生物を選択しないこともできますが、できるならば生物を高校で学んでいたほうが、大学の授業を受けるにあたって入っていきやすいと思います。

大阪(2年):生命科学科を受験するにあたって、センター試験が最も大切な選考事項になります。

センター試験のある一定ラインをクリアしたあとは面接対策ですが、面接は主に人柄を見るための試験です。でしゃばりすぎても地味すぎてもだめです。これから一緒に研究、勉強したいと思えるように自分を見せてください。

大阪(3年):

生命科学科は1年間だけ湖山で過ごすまいと
いけなくて、とてめんどくさいと思いましたが正直湖山での
1年が一番楽しいと思います。勉強は2年から少しづつ
医学部らしいことを学ぶので、1年の間は存分に遊ぶのが
良いと思います。

大阪(3年):

者が大女子きな人、多(おほ)くの人に会いたい人
なんとなく大学に来て、フェリススタを楽しみたい人
は来ないほうがいいです。
本当に目的意識がある人、本気で医療も勉強したい人
には最適かもしれないです。

自分がかびなにか創り上げたい人、

ここはほとんど何も無い ~~新規~~ 未開拓地なので、
ニューフロンティアを切り拓きたい人はココしか
ないと思います。

大阪(3年):大阪の人が2年に3人いますが、地域にかかわらずクラス全員仲が良くて楽しいです。

①「がん」や「免疫」といった大まかな分野に興味がある、という程度では絶対に研究対象として成立しません。いかに具体的にできるか。(知りたいと思っていることでも既に研究し尽くされていることがほとんど)

②自分のしたい研究が、学術的、社会的にみてどれほど価値があるのか考えて(知的好奇心はもちろん)調べていくべき。

③独創性のある研究とはどのような研究なのか、自分のしたい研究とは何なのかを常に自問自答する。

④本庶佑先生(←詳しくは研究室のHPを見てください)の研究理念を私は参考にしている

⑤経験的に当然と思われることを疑ってかかること(変人と思われるかもしれないが)

和歌山(4年):

・和歌山というが遠方から来る人は帰省の際に交通費が高い(これは深刻)

・服は鳥取では買えない

・カニうまい

～近畿出身編～

兵庫(1年):

最新の生命科学のことを新聞などでチェックしておく面接に役立ちます。また、そのときのニュースと関連しているのいいと思います。入学にはいってからも新しい発見が色々あるのはいっぱい楽しんでほしいです。

兵庫(1年): 生命科学科自体の人数が41人と多すぎないので、みんなと協力して4年間やっていこうとする空気が入ってよかったと思います。

兵庫(1年): 生命科学科を目指すなら、センターと面接の対策のみすればいいと思うよ。間違っても、予備校の冬期講習では2次対策の授業はとってはいけません。27万円とんだから・・・面接のシュミレーションを頭の中で行い続ければなんとかなる。

兵庫(1年):

2. メッセージ (スタイル自由)

失敗を恐れ、成功を得るよりも、失敗から何がつかみ取ろう。とにかくやってみる。模試の対策でも、自分の学部を決めることでも。

大阪(3年): 湖山で、自分の興味(生命科学だけでなく)を広げるべきではないだろうか? 米子にくれぱずっと生命科学(医学)の講義しかないため。また生命科学科の現在の問題として、やはり何も「資格」がないということが問題である。これはこれから「就職」という観点から見れば不利といわざるをえないような気がします。そのような点においてもこのように自分の興味を広げることが役に立つのではないかと考える。

兵庫(1年):

勉強すれば、やっとならば必ず成績は上がるので、最後の最後まで精一杯頑張ってください。

大阪(4年): 生命の分野にて講義で知識を深めてから実習(実験)ができて理解ができる。

大阪(4年): 何の目標も持たずに入らないほうがいいと思う。他大学並みに遊べない。サークルがほとんどなく、ほぼ部活ばかりなので、自由に活動できない。

大阪(4年): 私は第一志望に落ちた、という少し情けない理由と、生命科学を学びたい、という理由から鳥大に入学しました。今は、あのとき第一志望に落ちてよかったと思っています。ここでは最先端の生命科学を学べますし、医学の基礎的なことも学べ、興味が大きく広がります。また先生方、先輩とも明るく積極的で、親切です。活気あふれるキャンパスライフを送れることが生命科学科の一番の魅力です。

兵庫(4年): 1年は湖山での生活を楽しみ、いろんな学部の人と接し、いろんな考え方を学び、遊んでください。2年は米子の生活を楽しみ、まだ時間の余裕があるので鳥取でしかできないような自然を相手に遊んでください。3年になるとそろそろ将来のことも考えだし、実験も始まるので生命科学科に入った実感も強くなるでしょう。

～近畿出身編～

鳥大は、自然が豊かで毎日の生活がいきいきとしていて本当に楽しい！みんな、がんばって入学しよう！！

兵庫(2年):



兵庫(3年):

生命科学科は他の方が多少できなくても生物が好きだったり、生命や医学に興味があればいい学科だと思います。

兵庫(2年):

面接はきちんと練習しておろつていれば怖くありません。いろんなニュースや自然に興味をもってたくさんのご事情について話せるようになってください。

兵庫(4年): 湖山では、一般教養ばかりで退屈だと思う事もあると思いますが、2年次からは米子へ移動すると周りの雰囲気もかなり変わり、自分が医学部であること、生命科学であることの実感が徐々に出てくると思います。特に3年生からは実習も始まって、私にとって未知の世界に感じていた研究職というものに実際に手を動かすことや先輩方とお話する機会が増えることで今までと違う見方・考え方ができるようになりました。資格こそは無いものの、いい意味で自由な学科だと思います。

兵庫(2年):

受験では、身うちからセンター対策だけに専念するのはなく、数Ⅲ、Ⅱ、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの5科目のI+IIはしっかり勉強した方が、大学進学後も助かるし、センターの点も伸びやすいと思います。

あと、医学科の臨床を目指していたけどセンターの点が足りなくて鳥大にした人は、研究がメインの学系があることも

理解することから入る方が自分のためだと思います。

兵庫(2年): 生命科学がしたい人は入るべきだと思う。将来、研究者になるなら大学院には行くべきです。

兵庫(3年): 鳥取は兵庫県と接していますが、近くて遠い県でした。しかし、大学入学のため鳥取に来てみると、とても住みやすい所だと思いました。湖山も米子も両方良い街です。

1年の間は湖山で教養基礎科目しかありませんが、主題で興味のある教科を選びました。2年になって米子に来ると、今度は医学系の講義しかありません。時間割もほぼ詰まっていた忙しく大変ですが、医学に興味があれば楽しめます。もうすぐ実習も始まり、楽しみです。

兵庫(3年): 湖山での生活で得たものは本当に多かったです。特に他学部の人と交流できたこと、部活に一生懸命うちこんだこと、忘れません。最高に充実した1年でした。米子に来てまだ日々は浅いのですが、ここでしかできない出会いがたくさん待っているといます。授業については、米子に来てからは本当に充実しています。専門分野の授業はやはり意気込みが違ってきます。受験の対策としては、生命科学系の事項について、簡潔にまとめてある程度理解し、面接で聞かれた場合に説明できるようにすること、またそれに関する自分の考えについてもまとめて話せるようにしておきました。私はセンター後から2次対策をしましたが、以前推薦入試を受ける際に積んだ知識もあったので十分間に合いました。知識を積むことも大切ですが、自分で考える力を養うことも同様に重要だと思います。